

令和元年度

清掃事業概要



©稲沢市 いなッピー

稲沢市

も く じ

	頁数
I 稲沢市の概要	1
II 組織	
1 清掃事業事務分掌	2
2 職員配置	3
3 年度別職員数	
III 財政	
1 一般会計決算額に占める清掃費の推移	4
2 清掃費に占める塵芥処理費の推移	
3 清掃費に占めるし尿処理費の推移	
4 清掃費に占める環境センター費の推移	
5 原価計算	5
IV 清掃関係施設・車両	
1 清掃関係施設位置図	7
2 ごみ処理施設	8
3 し尿処理施設	13
4 車両	15
V ごみ処理事業	
1 廃棄物の分類	16
2 ごみの収集・運搬	17
3 ごみ処理量	20
4 令和元年度稲沢市環境センター分析結果	24
5 環境センター月別発電量、売電量	25
6 ごみの最終処分、施設処理に伴う資源化量	26
7 令和元年度ごみ処理フロー	28
8 リサイクル資源	29
VI し尿処理事業	
1 し尿処理事業概要	30
2 年度別し尿・浄化槽汚泥搬入量	31
3 令和元年度月別し尿・浄化槽汚泥搬入量	32
VII 資料	
1 令和元年度環境センター稼働状況	33
2 令和元年度浄化センター稼働状況	36

I 稲沢市の概要

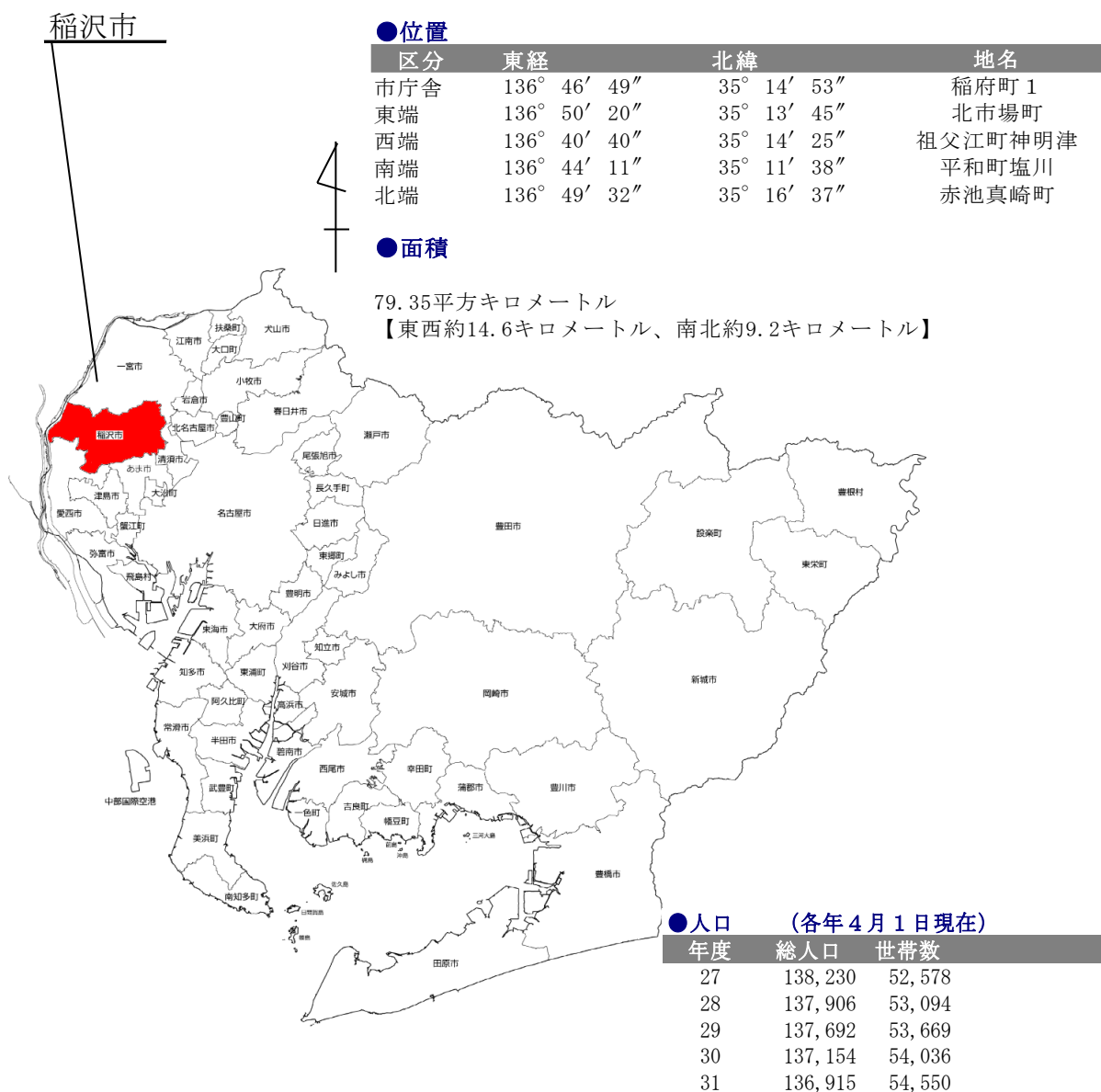
平成17年4月1日に稲沢市、旧祖父江町、旧平和町が合併し、新しい稲沢市が誕生しました。

天下の奇祭として有名な「国府宮はだか祭」で知られる稲沢市は、濃尾平野のほぼ中央に位置し、かつては尾張国の政治・文化の中心地として国府が置かれていた歴史あるまちです。江戸時代には東海道と中山道を結ぶ美濃路の宿場町としてにぎわいました。そのため市内各地には、かつての稲沢の隆盛を今に伝える史跡や文化財が数多く残されています。

市域の西に接する木曽川によって堆積された肥よくな土壌と温和な気候を生かし、古くから野菜、植木・苗木等の産地として発展してきました。

2027年には、名古屋と東京・品川間を40分で結ぶリニア中央新幹線が開業を予定しています。今後、名古屋圏では名古屋駅周辺におけるビジネスやショッピング、観光などの拠点性が一層高まっていくものと予想されます。

そのため、名古屋駅から鉄道アクセス10分台で利便性の高い駅周辺においては、住宅の需要がこれまで以上に高まる可能性がある地域です。



II 組織

1 清掃事業事務分掌 () 内は正規職員人員 (平成31年4月1日現在)

経済環境部

商工観光課 (9人)

企業立地推進課 (3人)

農務課 (16人)

環境保全課 (8人)

資源対策課 (14人)

ア 一般廃棄物の処理に係る企画及び調整に関すること。

イ ごみの発生抑制及び排出抑制に関すること。

ウ ごみの資源化及びリサイクルの普及促進に関すること。

エ 一般廃棄物の収集及び運搬に関すること。

オ 一般廃棄物処理業及び浄化槽清掃業の許可並びにこれらの指導に関すること。

カ 廃棄物の不法投棄に関すること。

キ ごみの収集運搬車等の管理に関すること。

ク その他廃棄物対策に関すること。

環境施設課 (28人)

ア 環境センター及び祖父江霊園の管理に関すること。

イ 平和浄化センターに関すること。

ウ 祖父江斎場に関すること。

エ 一般廃棄物の処分に関すること。

オ 搬入廃棄物の処理手数料の徴収に関すること。

カ その他廃棄物処理施設に関すること。

2 職員配置

平成31年4月1日現在（単位：人）

		資源対策課		環境施設課
		循環推進 グループ	業務 グループ	施設整備・管理 グループ
課長		1		1
主幹		1	1	1
主査		1		10
主任		1		2
技師・技師補				
主事・主事補			1	
計		3	2	14
技能 労務 職	技能手			14
	運転手		6	
	環境員			
	公務手			
計			6	14
※その他		2	4	4
合計		18		32

※臨時職員、再任用職員、常勤嘱託職員をいう。

3 年度別職員数

各年度4月1日現在（単位：人）

資源 対策課	年度	事務職	技術職	技能労務職	※その他	合計
	27	7			7	3
28	7			6	4	17
29	6			6	6	18
30	6			6	6	18
R元	6			6	6	18
環境 施設課	年度	事務職	技術職	技能労務職	※その他	合計
	27	14	1	16	3	34
28	13	1	14	6	34	
29	13	1	14	6	34	
30	12	1	14	4	31	
R元	13	1	14	4	32	

Ⅲ 財政

1 一般会計歳出決算額に占める清掃費の推移

(単位：円)

年度	一般会計決算額	清掃費	割合	清掃費/人口	備考
27	47,247,245,973	2,702,840,096	5.7%	19,553	
28	44,862,012,499	1,452,724,286	3.2%	10,534	
29	42,740,380,795	1,474,083,025	3.4%	10,706	
30	46,997,758,578	1,508,481,578	3.2%	10,998	
元	46,746,860,576	1,663,187,797	3.6%	12,148	

2 清掃費に占める塵芥処理費の推移

(単位：円)

年度	清掃費	塵芥処理費	割合	塵芥処理費/人口	備考
27	2,702,840,096	587,734,595	21.7%	4,252	
28	1,452,724,286	580,944,354	40.0%	4,213	
29	1,474,083,025	610,670,645	41.4%	4,435	
30	1,508,481,578	617,619,612	41.0%	4,503	
元	1,663,187,797	612,517,212	36.9%	4,474	

3 清掃費に占めるし尿処理費の推移

(単位：円)

年度	清掃費	し尿処理費	割合	し尿処理費/人口	備考
27	2,702,840,096	128,175,782	4.7%	927	
28	1,452,724,286	117,116,672	8.1%	849	
29	1,474,083,025	118,178,040	8.0%	858	
30	1,508,481,578	114,980,176	7.6%	838	
元	1,663,187,797	121,582,419	7.3%	888	

4 清掃費に占める環境センター費の推移

(単位：円)

年度	清掃費	環境センター費	割合	環境センター費/人口	備考
27	2,702,840,096	1,986,929,719	73.5%	14,374	
28	1,452,724,286	754,663,260	51.9%	5,472	
29	1,474,083,025	745,234,340	50.6%	5,412	
30	1,508,481,578	775,881,790	51.4%	5,657	
元	1,663,187,797	929,088,166	55.9%	6,786	

5 原価計算

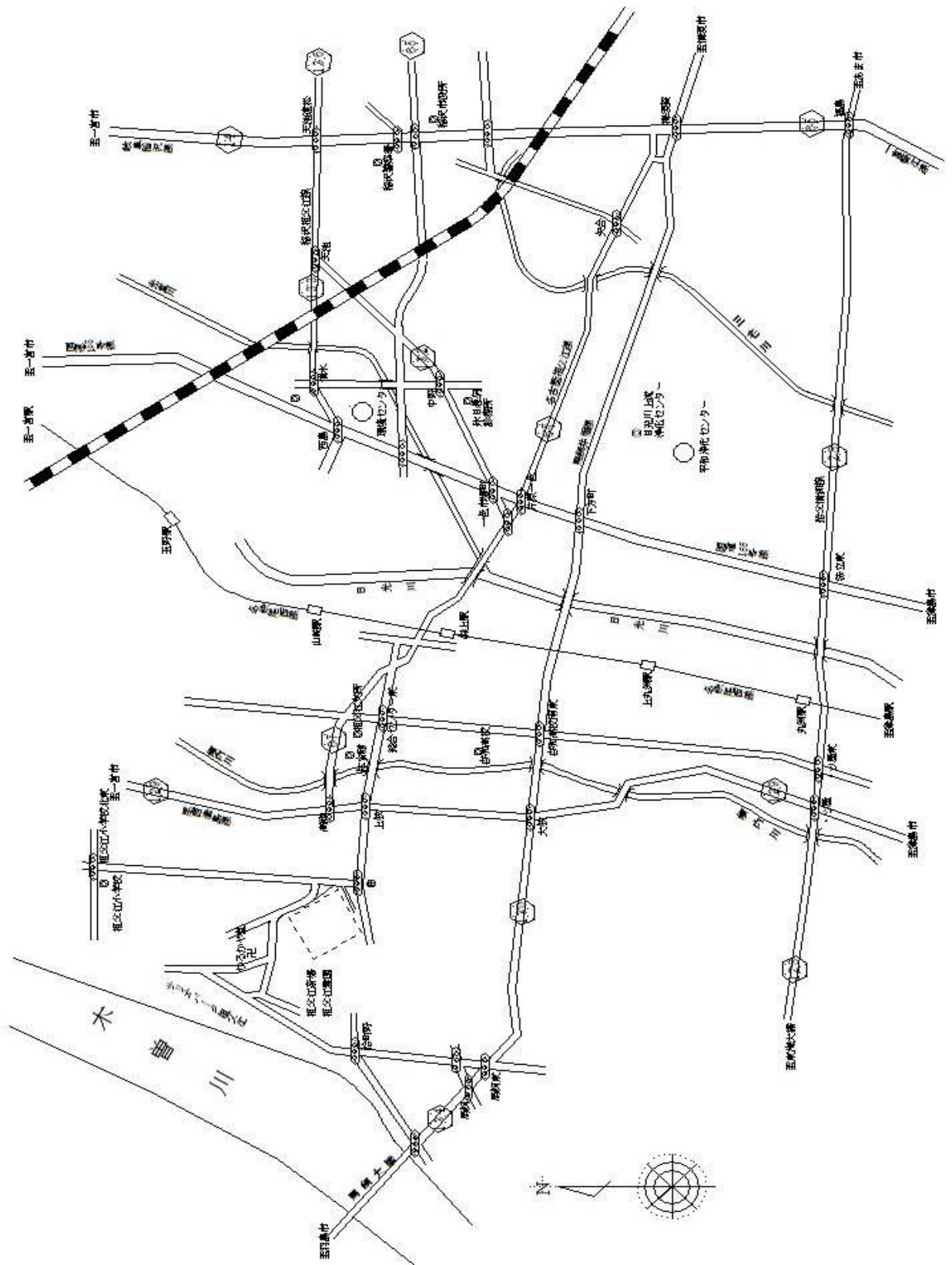
(1) ごみ処理経費及び原価表（令和元年度）

区分	収 集 ・ 運 搬			中 間 処 理			最 終 処 分			合 計	
	総経費	t 当り経費	構成比	総経費	t 当り経費	構成比	総経費	t 当り経費	構成比	総経費合計	構成比
人 件 費	円 78,619,067	円 3,168	% 27.7	円 252,008,708	円 7,162	% 30.1	円 0	円 0	% 0.0	円 330,627,775	% 27.3
維 持 管 理	205,209,958	8,270	72.3	475,800,859	13,521	56.8	90,856,599	21,489	100.0	771,867,416	63.6
車 両 購 入 費 等	0	0	0.0	1,998,000	57	0.2	0	0	0.0	1,998,000	0.2
建 設 改 良 費	0	0	0.0	108,424,000	3,081	12.9	0	0	0.0	108,424,000	8.9
合 計	(A) 283,829,025	11,439	100.0	(C) 838,231,567	23,821	100.0	(E) 90,856,599	21,489	100.0	(G) 1,212,917,191	100.0
年 度 中 処 理 量	(t) 可 燃 収 集 22,972 不 燃 収 集 1,735 粗 大 ご み 収 集 106 } 24,813 (B)			(t) 市 収 集 24,813 許 可 業 者 6,720 直 接 搬 入 1,843 し 尿 処 理 汚 泥 1,813 } 35,189 (D)			(t) 焼 却 残 渣 埋 立 3,442 灰 資 源 化 786 } 4,228 (F)			(t) 市 収 集 24,813 許 可 業 者 6,720 直 接 搬 入 1,843 し 尿 処 理 汚 泥 1,813 } 35,189 (H)	
1 t 当りの原価	収集運搬原価 11,439 円 (A) / (B)			中間処理原価 23,821 円 (C) / (D)			最終処分原価 21,489 円 (E) / (F)			全体原価 34,469 円 (G) / (H)	
付 記											

(2) し尿・浄化槽汚泥処理経費及び原価表（令和元年度）

区 分	中 間 処 理 及 び 終 末 処 理 経 費		
	総 経 費 (円)	kℓ当り経費 (円)	構成比 (%)
人 件 費		0	0.0
維 持 管 理 費	121,582,419	2,759	100.0
建 設 改 良 費		0	0.0
備 品 購 入 費		0	0.0
合 計	(A) 121,582,419	2,759	100.0
年 度 中 処 理 量	し 尿 3,458 kℓ 浄化槽汚泥 40,604 kℓ	} 44,062 kℓ (B)	
1 kℓ 当 り の 原 価	処理処分原価	$\frac{(A)}{(B)} =$	2,759 円

IV 清掃関係施設・車両
 1 清掃関係施設位置図



2 ごみ処理施設

施設名 区分	稲沢市環境センター	
所在地	稲沢市中野川端町74番地	
敷地面積	14,415.06 m ²	
建物延面積	事務棟	890.53 m ²
	収集棟	995.69 m ²
	工場棟	13,204.22 m ²
	計量棟	49.03 m ²
	その他	174.20 m ²
	計	15,313.67 m ²
処理機械型式	全連続燃焼式焼却炉 (荏原製作所)	横型回転式破砕機・2軸せん断破砕機 (栗本鐵工所)
処理能力	180t/24H (60t/24H×3基)	50t/5H (45t/5H・横型回転) (5t/5H・2軸せん断)
事業費 (財源内訳)	建設工事 総事業費……………11,450,980 千円	基幹的設備改良工事 総事業費……………2,660,017 千円
	国庫補助金 …………… 2,664,964 県補助金 …………… 1,137,073 起債 …………… 6,876,600 一般財源 …………… 772,343	国庫補助金 …………… 1,345,156 起債 …………… 1,082,700 一般財源 …………… 232,161
工期	着工 (平成9年6月9日)	竣工 (平成12年3月15日)
基幹的設備改良工事	着工 (平成25年6月28日)	竣工 (平成28年3月15日)
余熱利用	発電 (施設内電力・売電) 場内給湯・暖房 老人憩の家への給湯	



稲 沢 市 環 境 セ ン タ ー

(1) ごみ焼却処理施設概要

現在の施設は、平成9年から3か年継続事業として平成12年3月に完成した施設で、最新技術の導入により、ダイオキシン類の発生防止をはじめとする公害の防止と廃棄物発電によりエネルギー回収の推進を図り、環境に配慮している。

また、環境省の循環型社会形成推進交付金等を受けて、平成25年度から平成27年度にかけて施設の機能保全と延命化及びCO₂の削減を図るための大規模な基幹的設備改良工事を行い、平成28年3月に完成した施設は稼働に必要なエネルギーの消費に伴い排出されるCO₂の量を削減することで、地球環境温暖化対策に資する施設です。

ア ごみ焼却処理施設

① ごみの流れ

搬入されたごみは、ごみ計量機によってごみの重さが量られ、ごみ投入扉からごみピットに投入されます。ごみピットに一旦集められたごみは、ごみクレーンによってホッパと呼ばれる焼却炉の入口に投入され、給じん装置に送られます。

給じん装置により焼却炉に入ったごみは、焼却炉の中をゆっくり反転しながら進み、乾燥・燃焼し、完全に焼却して灰になります。

このごみ焼却処理施設は、1日、3基運転で最大180t処理できる能力を持っています。

② 空気の流れ

ごみを燃焼するのに必要な空気は、押込送風機によりごみピットの空気を焼却炉に送っており、ごみピットの臭いが工場の外に出ない工夫がされています。

③ 排ガスの流れ

完全燃焼した排ガスは、ボイラにより熱回収されて、さらに減温塔で冷やされます。減温塔を出た排ガスの有害成分は、消石灰で中和、活性炭で吸着され、ばいじんと共にバグフィルタで取り除いています。こうしてきれいになった排ガスは、誘引送風機によって煙突から排出されます。

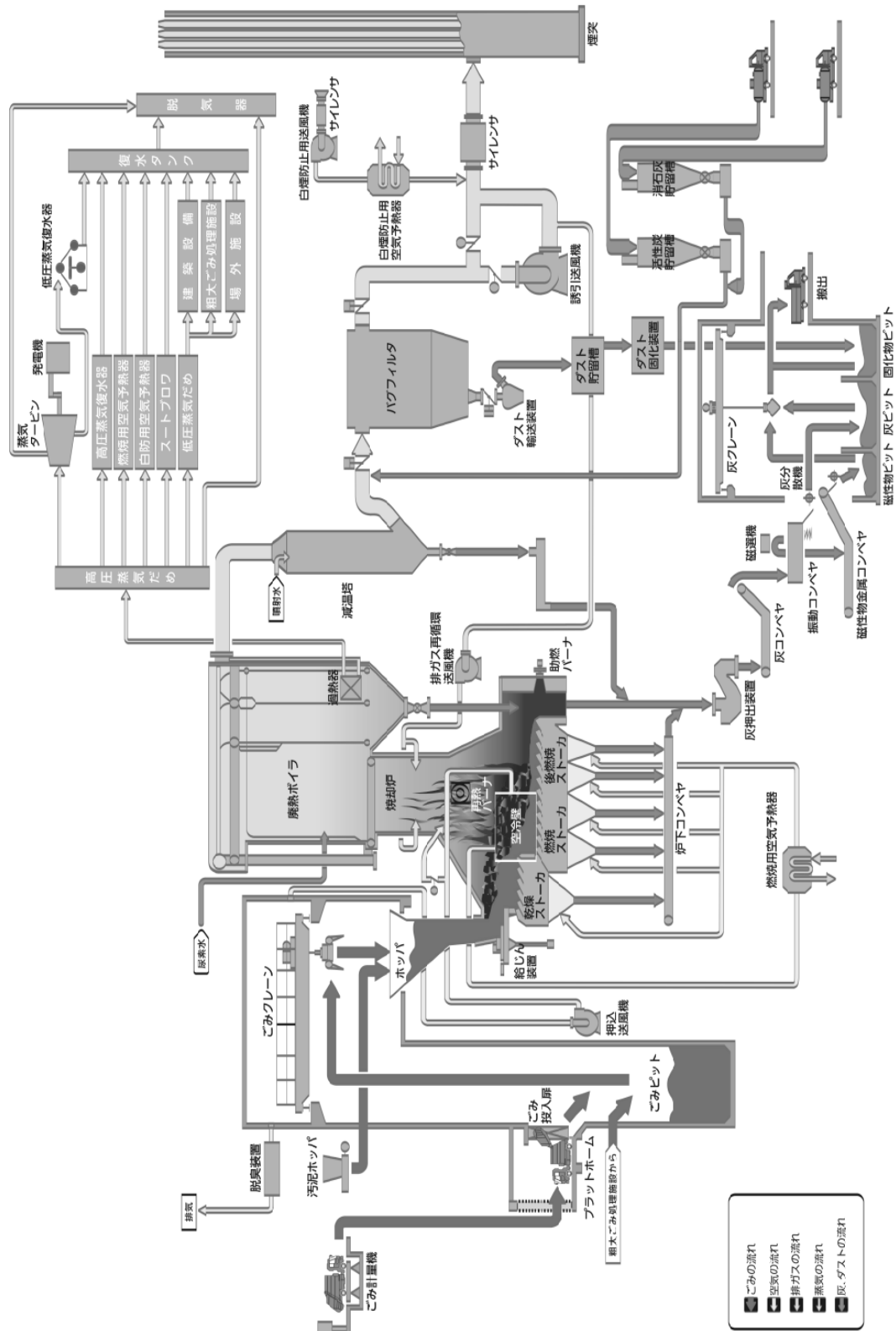
④ 蒸気の流れ

廃熱ボイラにより発生する蒸気は、主に蒸気タービンに送られ、発電機を回して最大2,150kWの電気をつくり、施設内の電力に使用し余剰電力は電力会社に売電します。また、場内施設に使用したり、冷暖房に使用したり、老人福祉施設の給湯に使われたりしています。こうして、有効に使われた蒸気は冷やされて水に戻り復水タンクに集められ再びボイラに戻されます。

⑤ 灰、ダストの流れ

焼却炉で燃焼したごみは灰となり、灰ピットに送られます。バグフィルタから出る細かいダストは、ダスト固化装置に運ばれ薬剤を混ぜ合わせて固められ、固化物ピットに送られます。そして、灰クレーンにて場外に搬出されます。

(2) ごみ焼却処理施設フローシート



(3) 粗大ごみ処理施設概要

イ 粗大ごみ処理施設

① 粗大ごみの流れ

粗大ごみピットに集められた燃えないごみは粗大ごみクレーンによって、また一部はダンピングボックスから直接、不燃ごみ受入ホッパに運ばれ、回転式破砕機で細かく破砕されて、選別工程に送られます。また、可燃性の粗大ごみは可燃粗大ごみ受入ホッパから、二軸せん断破砕機で小さく破砕されてごみピットに運ばれます。

② 鉄分の流れ

破砕されたごみの中の鉄分は磁選機で吸着・回収されます。風力選別装置を通して不純物を除去した後、金属圧縮機で圧縮成型され、トラックに積まれてリサイクルされます。

③ アルミの流れ

破砕されたごみの中のアルミ類は粒度選別機にかけられた後、アルミ選別機で選別し回収されます。金属圧縮機で、圧縮成型された後、トラックに積み込まれてリサイクルされます。

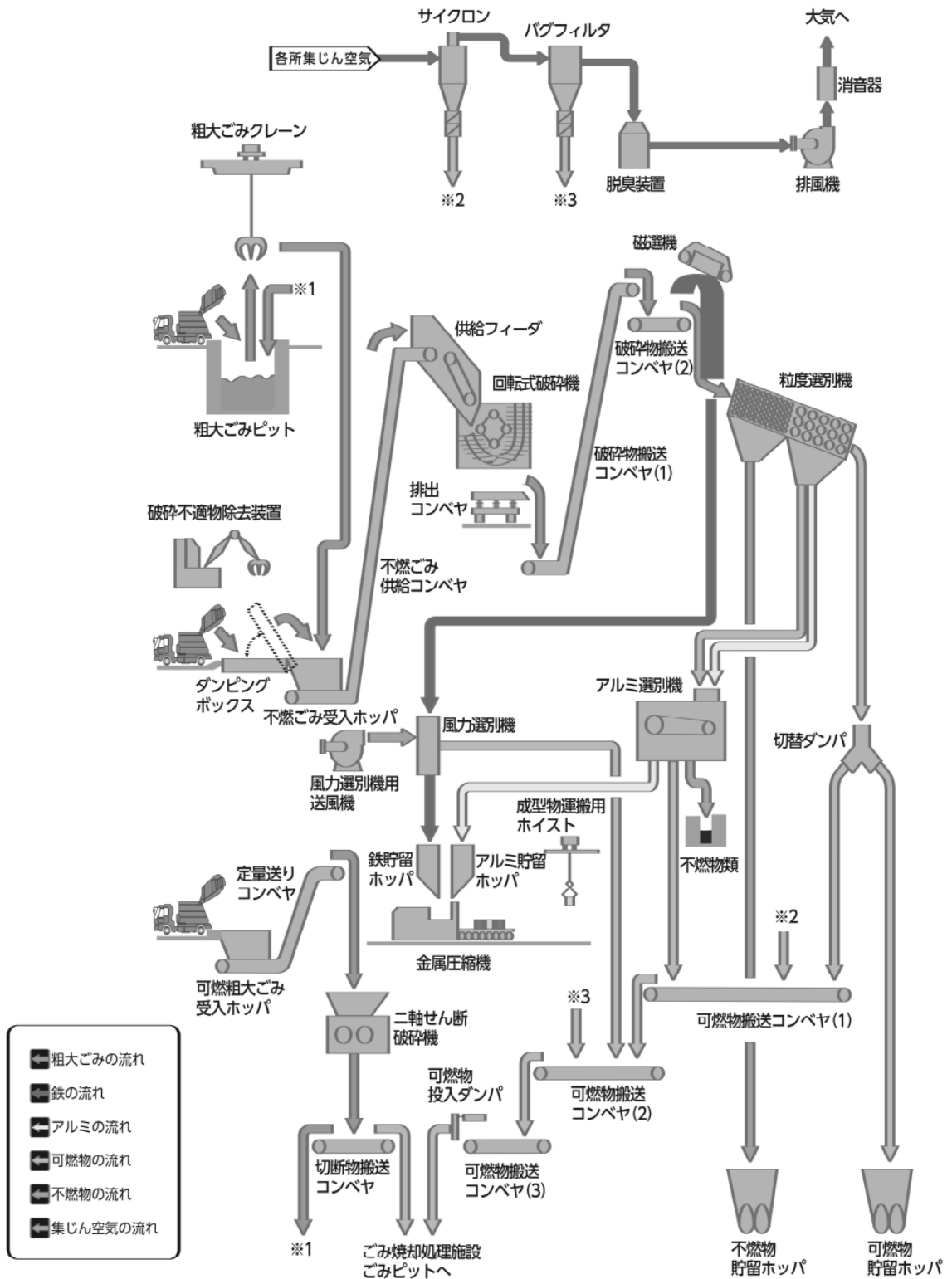
④ 可燃物の流れ

破砕されたごみの中の可燃物は、粒度選別機とアルミ選別機で分別し回収されごみ焼却処理施設で焼却されます。

⑤ 不燃物の流れ

破砕されたごみの中の不燃物は、粒度選別機によって分別し回収されます。不燃物貯留ホッパに貯留された後、トラックに積み込まれ搬出され焼却処分されます。

(4) 粗大ごみ処理施設フローシート



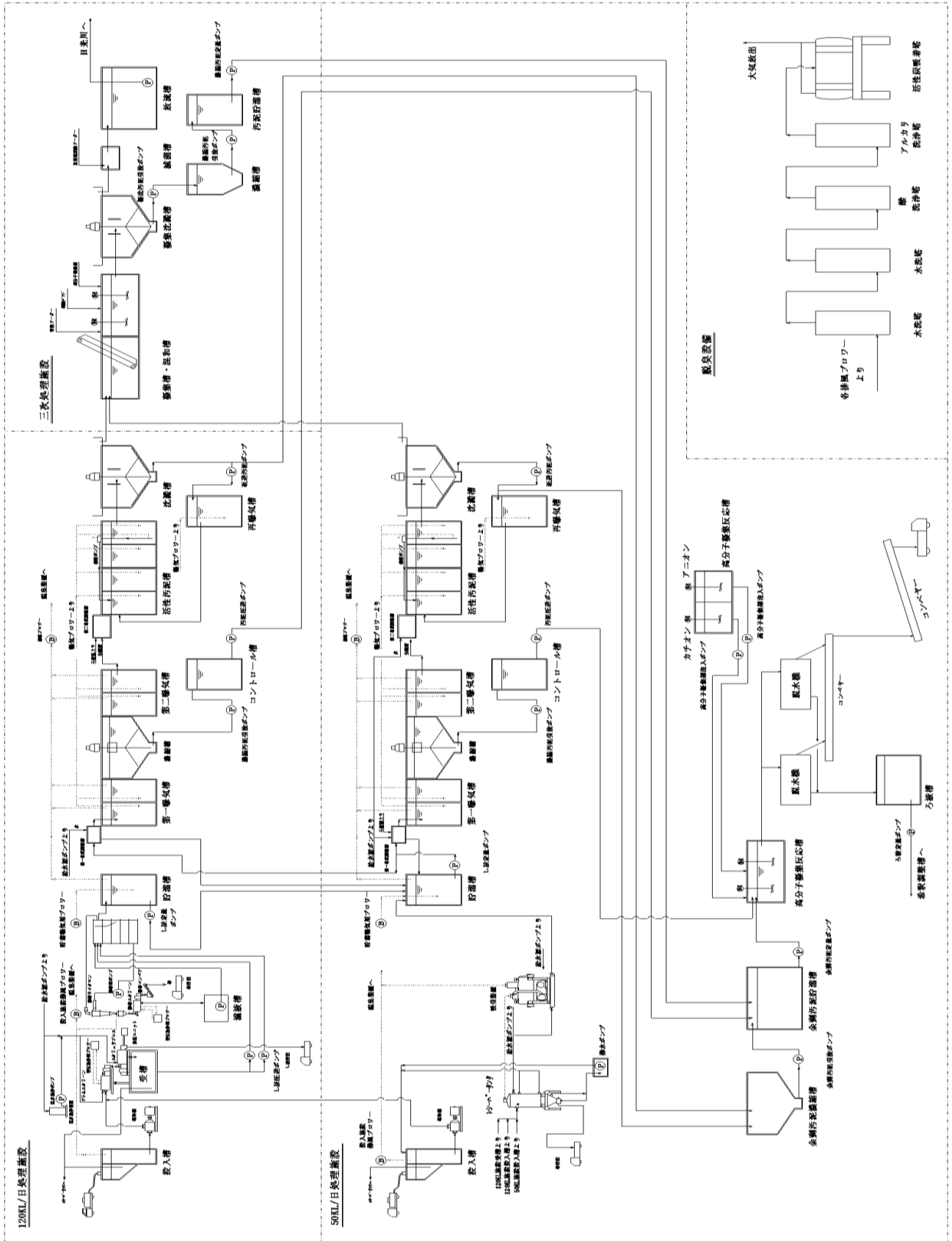
3 し尿処理施設

施設名 区分	稲沢市平和浄化センター		
所在地	稲沢市平和町須ヶ谷本田101番地		
敷地面積	28,998.62 m ²		
建物延面積	1,709.93 m ²		
処理方式	高速酸化処理方式 (セキスイエパイロメント)	高速酸化処理方式 (セキスイエパイロメント)	凝集沈殿処理方式 (セキスイエパイロメント)
処理能力	120kℓ/日	50kℓ/日	三次処理
事業費 (1,110,965) 千円	事業費 434,355千円 (国庫補助金 77,200 県補助金 20,925 起 債 253,800 一般財源 82,430)	事業費 484,570千円 (国庫補助金 66,150 県補助金 22,050 起 債 267,000 一般財源 129,370)	事業費 192,040千円 (国庫補助金 94,087 県補助金 31,362 起 債 53,000 一般財源 13,591)
工期	着工(昭和46年11月1日) 竣工(昭和48年3月20日)	着工(昭和49年12月20日) 竣工(昭和50年9月30日)	着工(昭和55年9月1日) 竣工(昭和56年7月30日)



稲 沢 市 平 和 浄 化 セ ン タ ー

し尿処理施設フローシート



4 車両

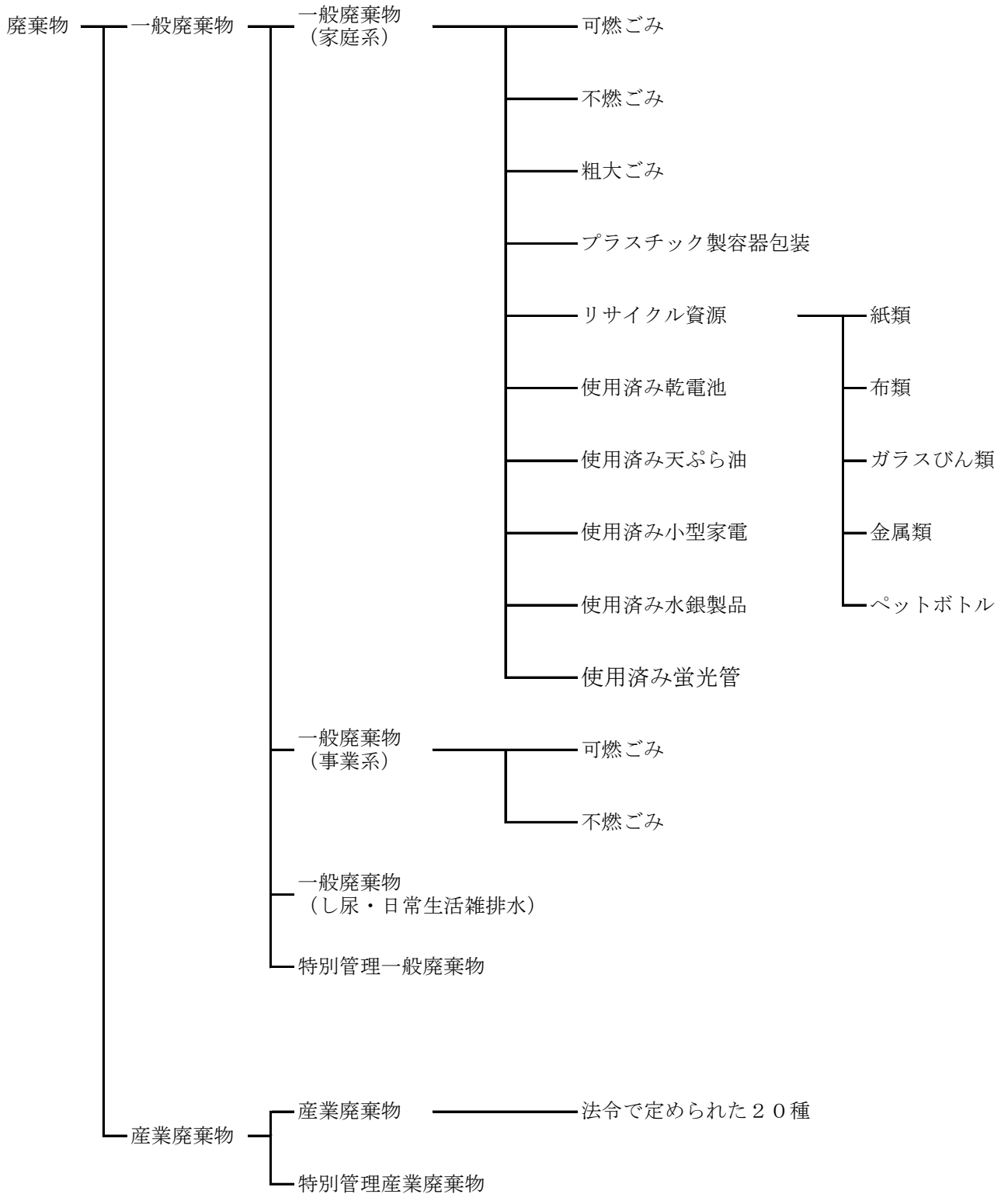
(平成31年4月1日現在)

区分	車 種		所 管				合計
	形 式	積載量	環境センター		平和浄化センター		
			環境保全課	資源対策課	環境施設課	環境施設課	
ごみの収集運搬	パッカー車 (4.0トン)	2.0 t		3			3
	パッカー車 (3.5トン)	3.0 t		2			2
	普通貨物(パワーゲート付ダンプ車)	3.8 t		1			1
	小型貨物(ダンプ車)	700 kg		1			1
	軽四貨物車	350 kg		2			2
	小 計			9			9
ごみ処理	タイヤショベル						0
	フォークリフト				2		2
	普通貨物(ダンプ車)	3.75 t			1		1
	小 計				3		3
その他	普通乗用車				1		1
	小型貨物(テールゲート付)	2.0 t		1			1
	小型貨物(ライトバン)				1		1
	軽四貨物車	350 kg	3	1			4
	小 計		3	2	2		7
合 計			3	11	5	0	19

V ごみ処理事業

1 廃棄物の分類

(平成31年4月1日現在)



2 ごみの収集・運搬

(1) 一般廃棄物（家庭系・事業系）

稲沢市が処理すべき一般廃棄物は、下表のとおり収集・運搬を行い、適正処理に努めている。

一般家庭を発生源とするごみ（家庭系一般廃棄物）のうち、可燃ごみは週2回、プラスチック製容器包装は週1回、不燃ごみは月2回、粗大ごみは週1回、リサイクル資源は月1回の収集を行っている。

また、リサイクル資源は、指定日に排出できなかった人のために指定の日曜日に市内の公共施設で午前8時30分から正午まで地域ステーションを開催し、排出の機会を提供するなど利便性に配慮している。なお、地域ステーションでは、リサイクル資源（紙類・布類・ガラスびん類・金属類・ペットボトル）に加え、使用済み天ぷら油を回収している。

このほか、公共施設には使用済み乾電池・天ぷら油・小型家電・水銀製品の常設の回収箱が設置されている。

区 分	収集・運搬	中間処理		
		処理主体	処理方法	
家 庭 系	1 可燃ごみ	稲沢市・委託業者	稲沢市・許可業者	焼却・資源化
	2 不燃ごみ	稲沢市・委託業者	稲沢市・許可業者	破碎・資源化
	3 粗大ごみ	委託業者	稲沢市	破碎・資源化
	4 プラスチック製 容器包装	委託業者	委託業者	資源化
	5 リサイクル資源	委託業者	委託業者又は市指定 の再商品化事業者等	資源化
	6 使用済み乾電池	稲沢市・委託業者	委託業者	資源化
	7 使用済み天ぷら油	稲沢市・委託業者	委託業者	資源化
	8 使用済み小型家電	稲沢市・委託業者	委託業者	資源化
	9 使用済み水銀製品	稲沢市・委託業者	委託業者	資源化
	10 使用済み蛍光管	稲沢市・委託業者	委託業者	資源化
事 業 系	1 可燃ごみ	許可業者	稲沢市	焼却
	2 不燃ごみ		稲沢市	破碎・資源化

一般家庭から排出されるごみの量が1日に5袋（指定ごみ袋）を超える一時多量ごみは、直接、環境センターに搬入するよう指導している。

また、事業活動に伴って排出される事業系ごみは、原則として事業者責任で処理することとしているが、処理できない場合には、事業者自ら搬入するか、又は市が許可した業者に委託して搬入されている。

(2) ごみ収集・処理手数料

(平成31年4月1日現在)

区 分		手 数 料	
		収集運搬	処 理・処 分
直接収集	粗大ごみ	1,000円/個	
(家庭系ごみ)	粗大ごみ以外	無 料	無 料
自己搬入及び 許可業者	家庭系一時多量ごみ	—	200円/10kg
	事業系ごみ		

(3) 処理困難物

(平成31年4月1日現在)

分 類	主 な 品 目	リサイクル・ 処理方法
有毒性物質 ・危険物	プロパンガスボンベ、農薬、薬品、火薬類、注射針等の鋭利な医療系廃棄物	購入先の販売店・医院
自動車用品	タイヤ、バッテリー、エンジンオイル	購入・交換した店
塗料類	ペンキ、シンナー、コールタール	購入先の販売店
建設資材	瓦、コンクリート片、ガレキ、解体木材	解体業者、購入先
機械等	農業用機械、二輪車、エンジン	購入先の販売店
産業廃棄物	廃プラスチック類、木くず、廃油、焼却灰	産業廃棄物処理業者
その他	消火器、耐火金庫、ピアノ、温水器、浴槽	購入先の販売店

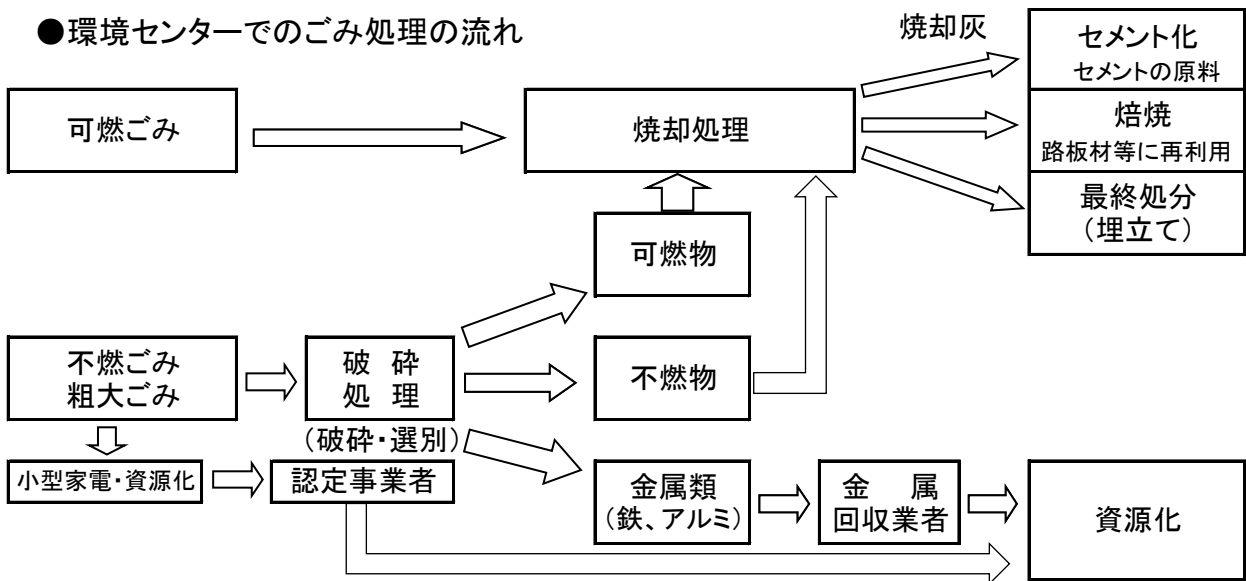
(4) 市が処理を行わないもの (リサイクル法の定めがあるもの)

(平成31年4月1日現在)

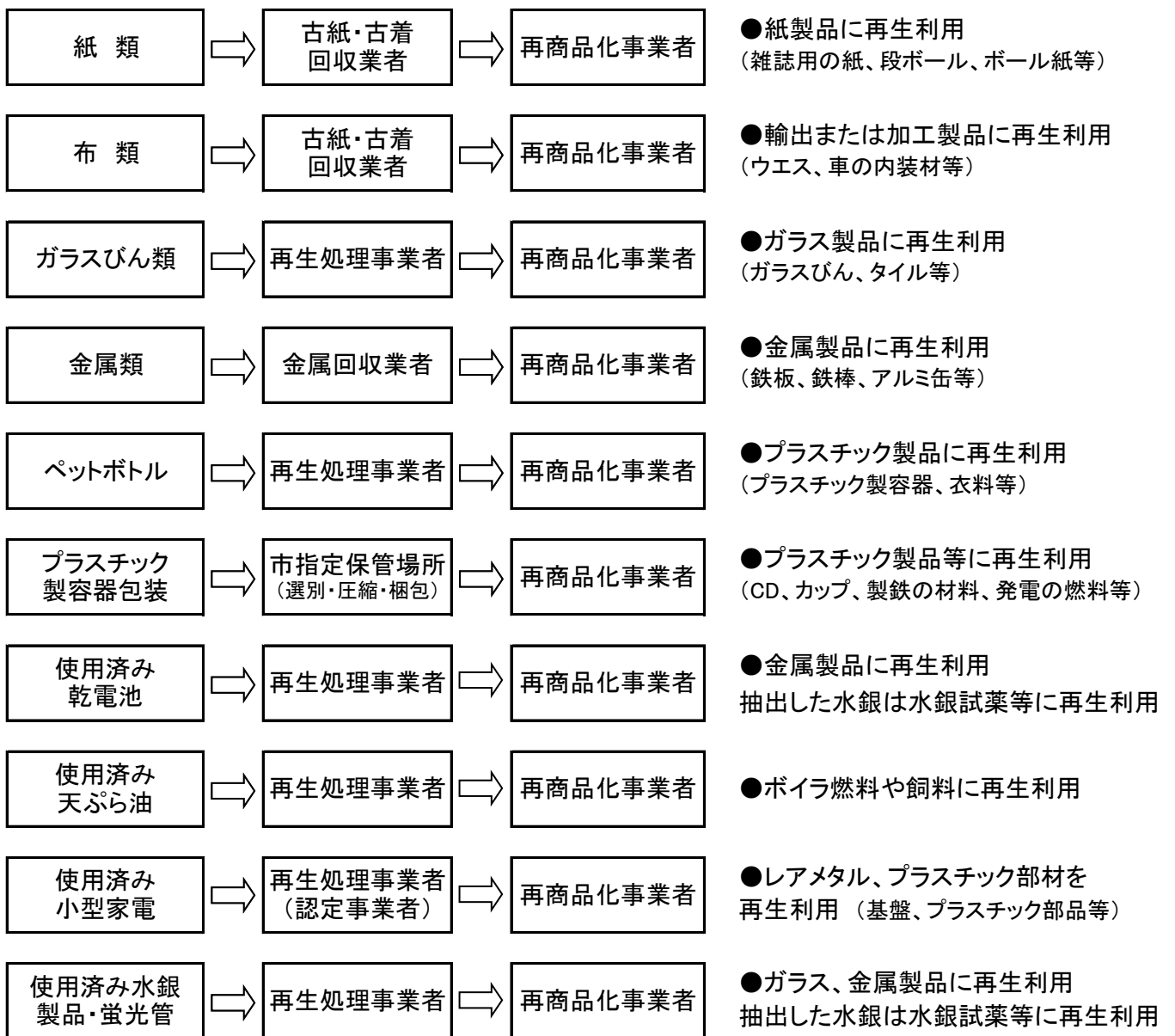
分 類	主 な 品 目	リサイクル・ 処理方法
家電リサイクル 法対象品 (特定 家庭用機器)	テレビ<ブラウン管、液晶・プラズマ>、エアコン、冷蔵庫・冷凍庫・保冷温庫、洗濯機、衣類乾燥機	家電製品の販売店、 指定地自己搬入、有 料戸別収集

(5) ごみのゆくえ

●環境センターでのごみ処理の流れ



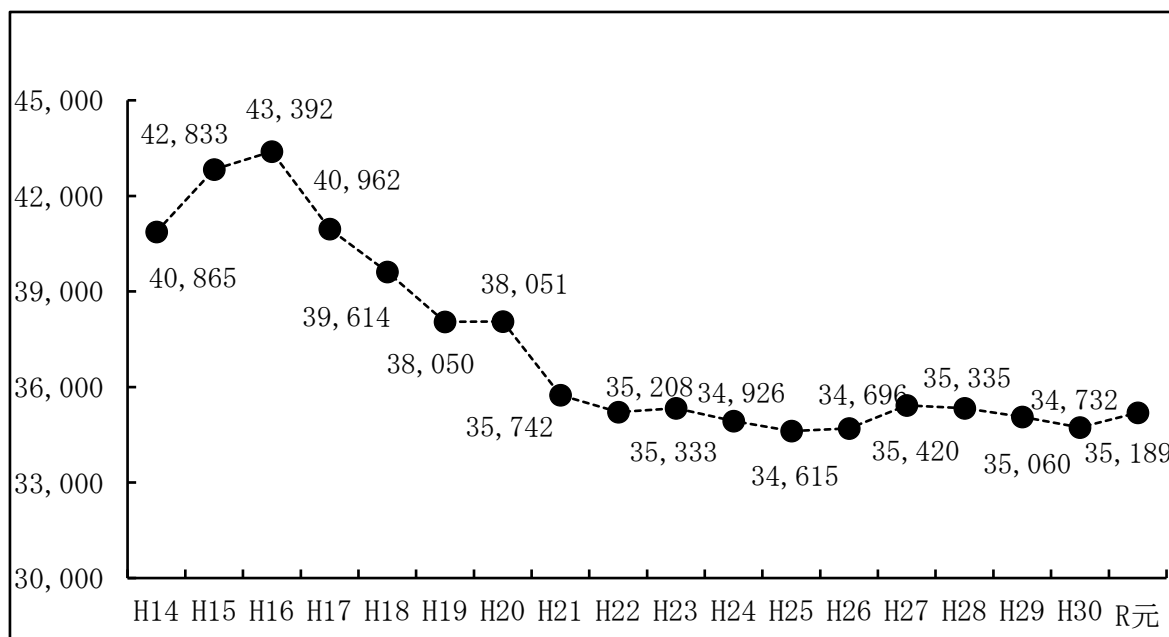
●リサイクル資源等の処理の流れ



3 ごみ処理量

(1) 環境センター処理量の推移

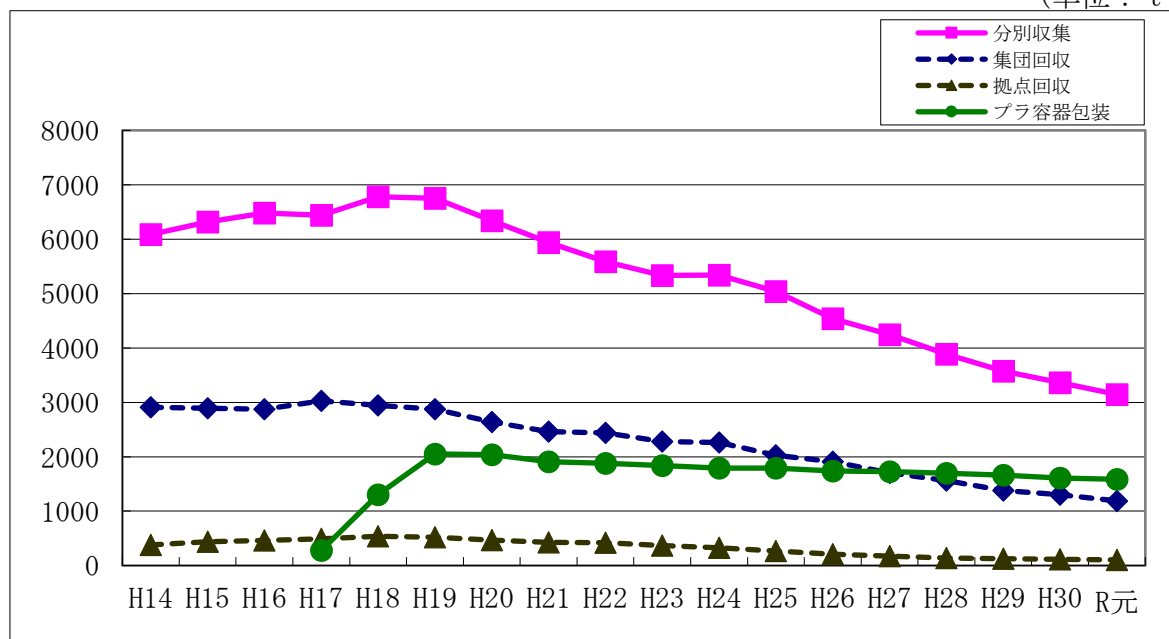
(単位：t)



- H 1 2 大型スーパー出店によるごみ量増加、災害ごみ（東海豪雨859 t）
- H 1 3 災害ごみ162 t
- H 1 5 災害ごみ562 t
- H 1 6 10月、粗大ごみ有料戸別収集の実施に伴い、実施前に大量に粗大ごみが排出される
- H 1 7 10月、プラ製容器包装収集の順次拡大に伴い、ごみ量が減少（稲沢・小正市民センター地区）
- H 1 8 4月下津・大里西・大里東市民センター地区、10月明治・千代田市民センター地区
- H 1 9 4月祖父江・平和支所地区（市全域での実施となる）
- H 2 1 4月指定ごみ袋制度の導入により、ごみの分別が進み、ごみ量が減少
- H 2 4 環境センター搬入手数料200円/10kgに料金改定
- H 2 7 市内産廃業者による食品の不適正保管事件が発生し、市でも一部処理
- R 1 環境センター粗大ごみ処理施設火災

(2) リサイクル資源回収量の推移

(単位：t)



(3) 令和元年度ごみ・リサイクル資源処理実績

単位：t

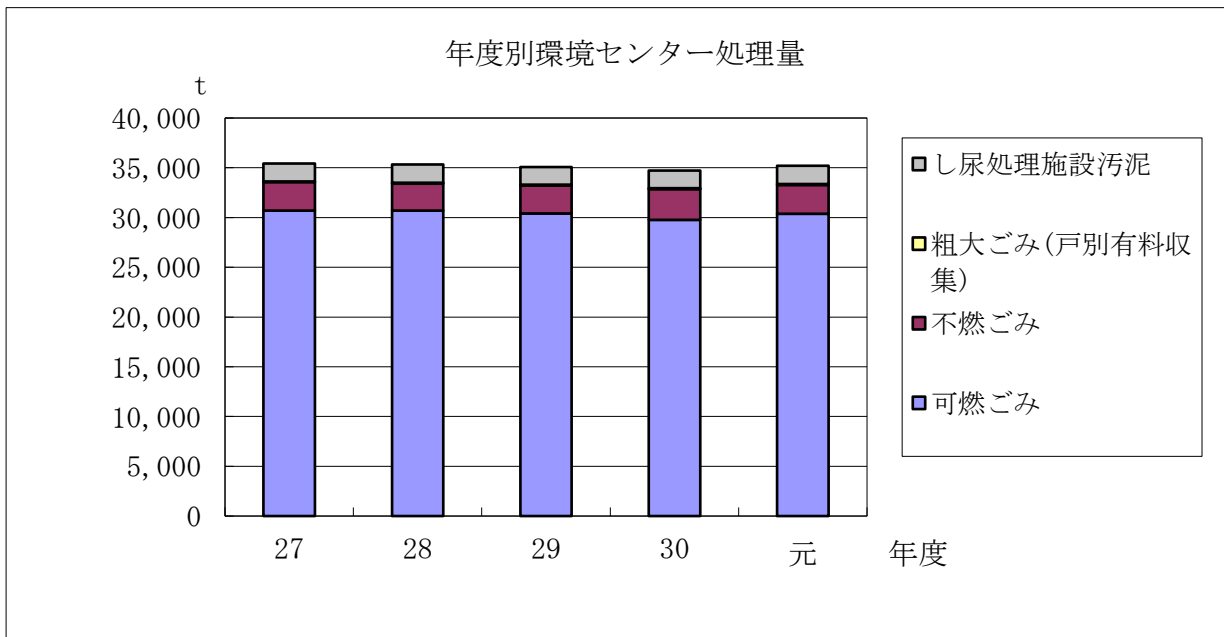
区 分		29年度	前年比	30年度	前年比	元年度	前年比		
総人口 10/1 [人] (A)		137,592	99.8	137,052	99.6	136,887	99.9		
処 理 量	環境センター 処理ごみ	家庭系	可燃ごみ (B)	22,946	99.6	22,809	99.4	23,290	102.1
			不燃ごみ (C)	2,721	105.0	2,925	107.5	2,788	95.3
			粗大ごみ (D)	90	102.3	90	100.0	106	117.8
		計 (E)	25,757	100.1	25,824	100.3	26,184	101.4	
	事業系	可燃ごみ (F)	7,452	97.2	6,968	93.5	7,082	101.6	
		不燃ごみ (G)	94	81.0	155	164.9	110	71.0	
		計 (H)	7,546	97.0	7,123	94.4	7,192	101.0	
	計 (I)	33,303	99.4	32,947	98.9	33,376	101.3		
	資源化	集団回収 (J)		1,381	88.4	1,305	94.5	1,188	91.0
		直接資源化	分別収集 (K)	3,575	92.0	3,363	94.1	3,145	93.5
			地域ステーション (L)	126	90.6	113	89.7	104	92.0
			プラスチック製容器包装 (M)	1,662	97.8	1,609	96.8	1,588	98.7
			拠点回収 (N)	57	116.3	57	100.0	65	114.0
			計 (O)	5,420	93.9	5,142	94.9	4,902	95.3
		施設処理資源化	小型家電資源化 (P)	31	119.2	48	154.8	88	183.3
			破碎処理施設回収 (Q)	533	100.9	589	110.5	80	13.6
灰資源化 (R)			493	102.7	781	158.4	786	100.6	
計 (S)			1,057	102.2	1,418	134.2	954	67.3	
計 (T)	7,858	93.9	7,865	100.1	7,044	89.6			
処 理 量 計 (U)		41,161	98.3	40,812	99.2	40,420	99.0		
最 終 処 分 量 (V)		4,059	95.0	3,863	95.2	3,442	89.1		
リサイクル率 (T÷(I+J+O) [%] (W))		19.6	95.6	20.0	102.0	17.8	89.0		
a 家庭系1人1日当たりのごみ量(E) [g]		513	100.4	516	100.6	524	101.6		
b 事業系1人1日当たりのごみ量(H) [g]		150	96.8	142	94.7	144	101.4		
c 小計1人1日当たりのごみ量(a+b) [g]		663	99.5	658	99.2	668	101.5		
b 1人1日当たりの直接資源化量(O) [g]		108	93.9	103	95.4	98	95.1		
合 計 (c+d) [g]		771	98.7	761	98.7	766	100.7		
1人1日当たりの処理量(含むJ, O) [g]		799	98.5	788	98.6	790	100.3		

(4) 年度別環境センター処理量の推移

(単位 t)

年 度		27	28	29	30	元
人 口 (人)		138,174	137,918	137,592	137,052	136,887
可燃ごみ	収集ごみ	22,949	22,692	22,573	22,449	22,972
	許可業者	6,985	6,915	6,970	6,515	6,640
	直接持込	771	1,101	855	813	760
	計	30,705	30,708	30,398	29,777	30,372
不燃ごみ	収集ごみ	1,820	1,721	1,760	1,883	1,735
	許可業者	82	90	78	130	80
	直接持込	943	896	977	1,067	1,083
	計	2,845	2,707	2,815	3,080	2,898
粗大ごみ(戸別有料収集)		81	88	90	90	106
し尿処理施設汚泥		1,789	1,832	1,757	1,785	1,813
合 計		35,420	35,335	35,060	34,732	35,189

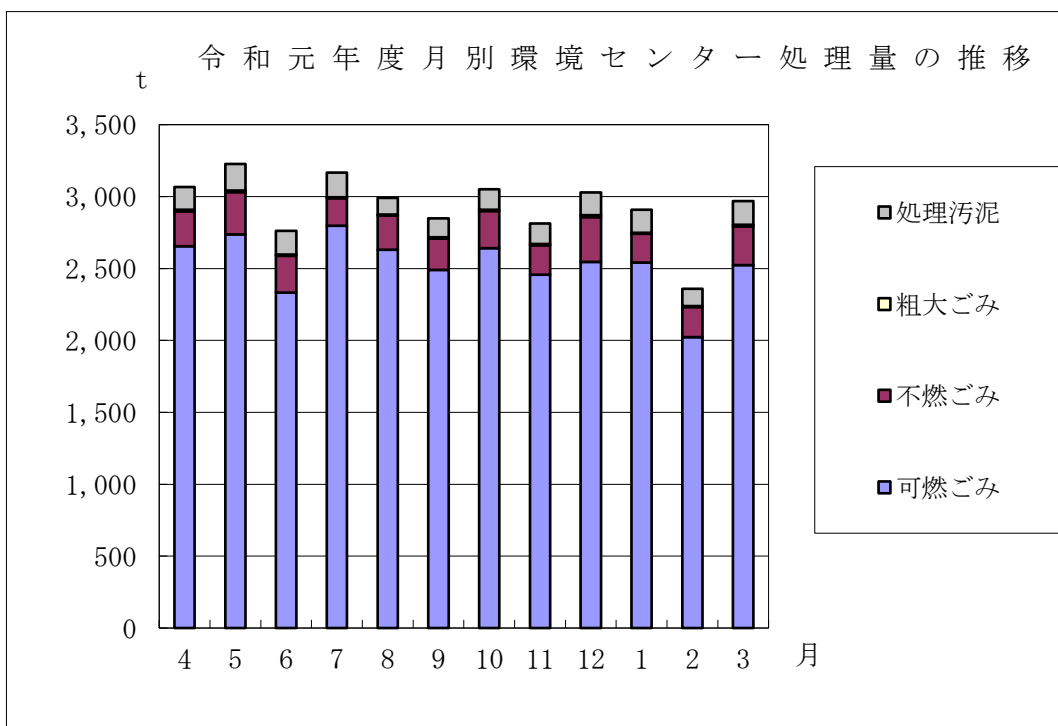
※人口、世帯 = 10月1日現在



(5) 令和元年度月別環境センター処理量の推移

(単位 t)

月	可燃ごみ	不燃ごみ	粗大ごみ	処理汚泥	計
4	2,654	243	11	159	3,067
5	2,737	295	10	185	3,227
6	2,332	257	8	165	2,762
7	2,797	191	8	170	3,166
8	2,630	238	8	115	2,991
9	2,491	218	8	132	2,849
10	2,641	259	9	143	3,052
11	2,457	204	9	142	2,812
12	2,545	313	12	158	3,028
1	2,542	200	6	161	2,909
2	2,022	211	6	119	2,358
3	2,524	269	11	164	2,968
計	30,372	2,898	106	1,813	35,189

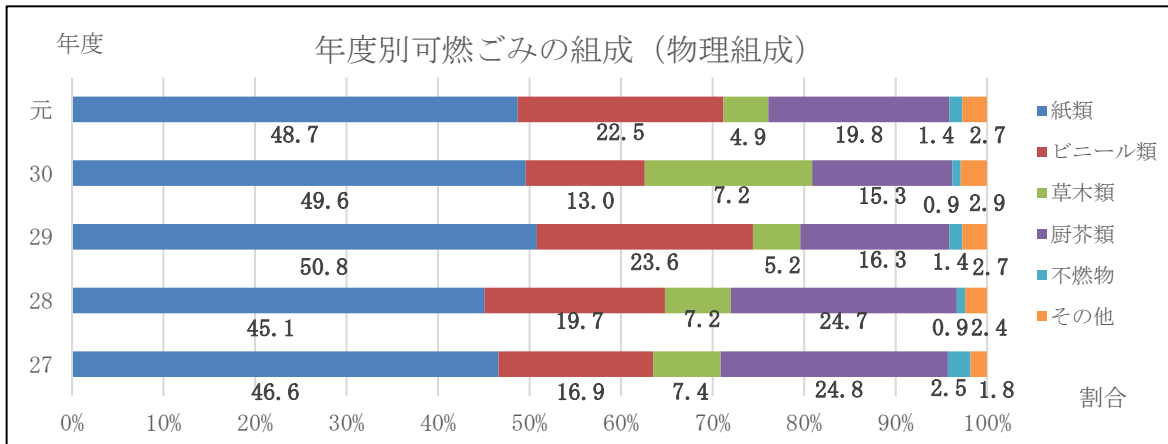
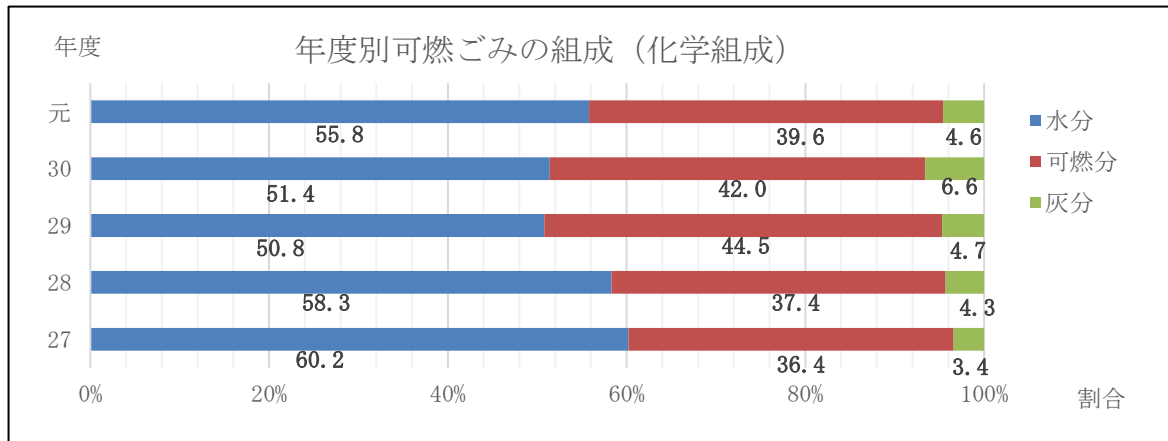


4 令和元年度環境センター処理ごみ分析結果

年度別可燃ごみの組成

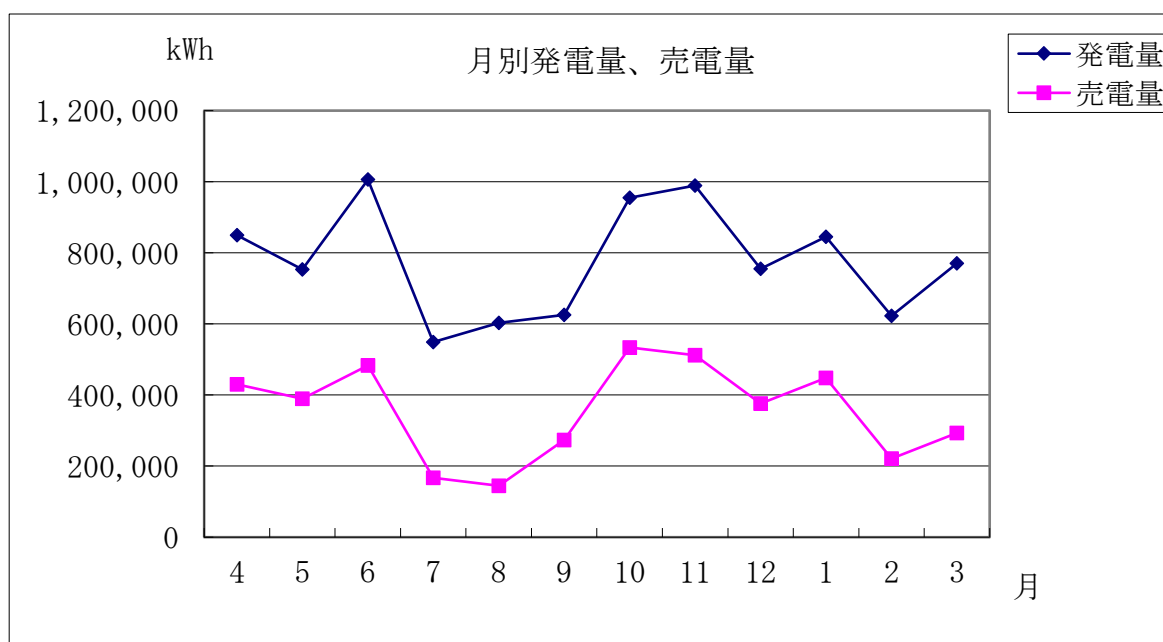
(単位 %)

年 度		27	28	29	30	元
化学組成	水分	60.2	58.3	50.8	51.4	55.8
	可燃分	36.4	37.4	44.5	42.0	39.6
	灰分	3.4	4.3	4.7	6.6	4.6
	計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
物理組成	紙類	46.6	45.1	50.8	49.6	48.7
	ビニール類	16.9	19.7	23.6	13.0	22.5
	草木類	7.4	7.2	5.2	18.3	4.9
	厨芥類	24.8	24.7	16.3	15.3	19.8
	不燃物	2.5	0.9	1.4	0.9	1.4
	その他	1.8	2.4	2.7	2.9	2.7
	計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0



5 環境センター月別発電量・売電量

月	発 電 実 績			売 買 電 力 実 績		
	発電量 a (kWh)	場内使用電力量 b (kWh)	差引電力量 a - b (kWh)	売電量 a' (kWh)	購入電力量 b' (kWh)	差引電力量 a' - b' (kWh)
4	849,960	492,150	357,810	429,638	71,849	357,789
5	753,660	471,450	282,210	389,813	107,590	282,223
6	1,005,850	523,080	482,770	483,230	454	482,776
7	548,930	509,760	39,170	166,766	127,606	39,160
8	602,870	517,600	85,270	144,667	59,376	85,291
9	625,270	449,620	175,650	273,626	97,505	176,121
10	954,780	485,540	469,240	533,695	64,538	469,157
11	989,580	477,910	511,670	511,685	0	511,685
12	755,320	459,910	295,410	376,241	80,851	295,390
1	844,840	459,160	385,680	448,138	62,450	385,688
2	622,660	449,170	173,490	220,853	47,374	173,479
3	769,950	515,760	254,190	293,194	38,981	254,213
合計	9,323,670	5,811,110	3,512,560	4,271,546	758,574	3,512,972
平均	776,973	484,259	292,713	355,962	63,215	292,748



6 ごみの最終処分、施設処理に伴う資源化量

(1) 概要

焼却残渣、キレート処理された飛灰は、埋立処分をしている。

最終処分先は公益財団法人愛知臨海環境整備センターと民間処分場への委託である。

また、不燃ごみ及び粗大ごみを破砕処理した後は、鉄類・アルミ類を選別し資源化に努めている。

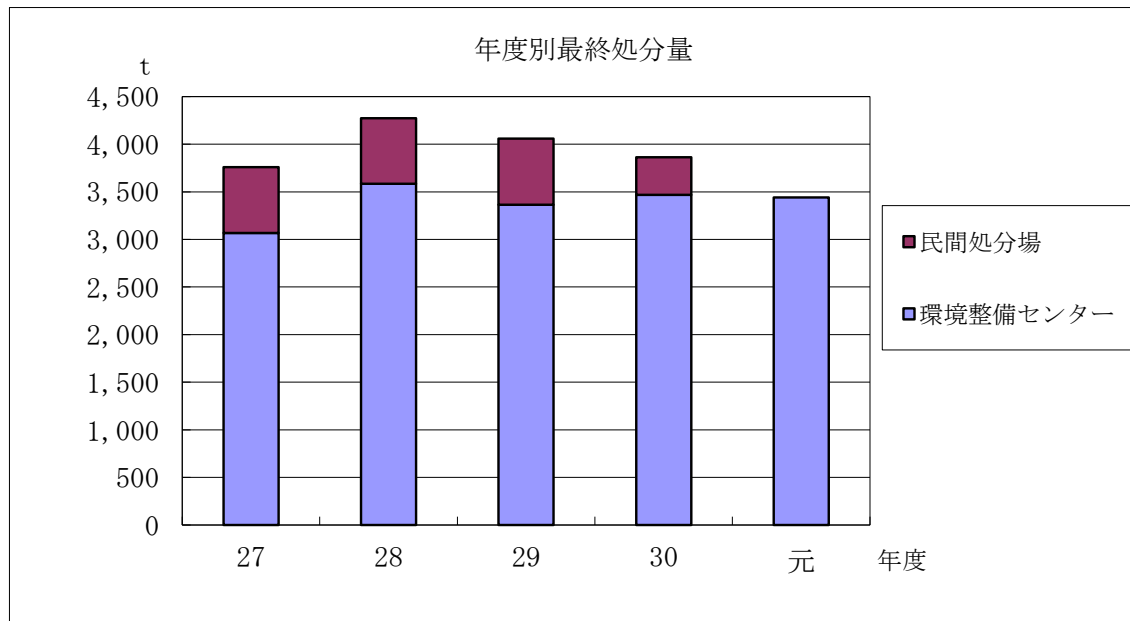
更に、平成23年度より焙焼、平成30年度よりセメント化による資源化を行っている。これにより、埋立処分量の減量化を図り、循環型社会の推進と埋立処分施設の延命に取り組んでいる。

(2) 年度別最終処分量

埋立処分

(単位 t)

処分先		年度	27	28	29	30	元
埋立処分	(公財) 愛知臨海環境整備センター		3,067	3,583	3,364	3,469	3,442
	民間処分場		691	691	694	393	0
計			3,758	4,274	4,058	3,862	3,442

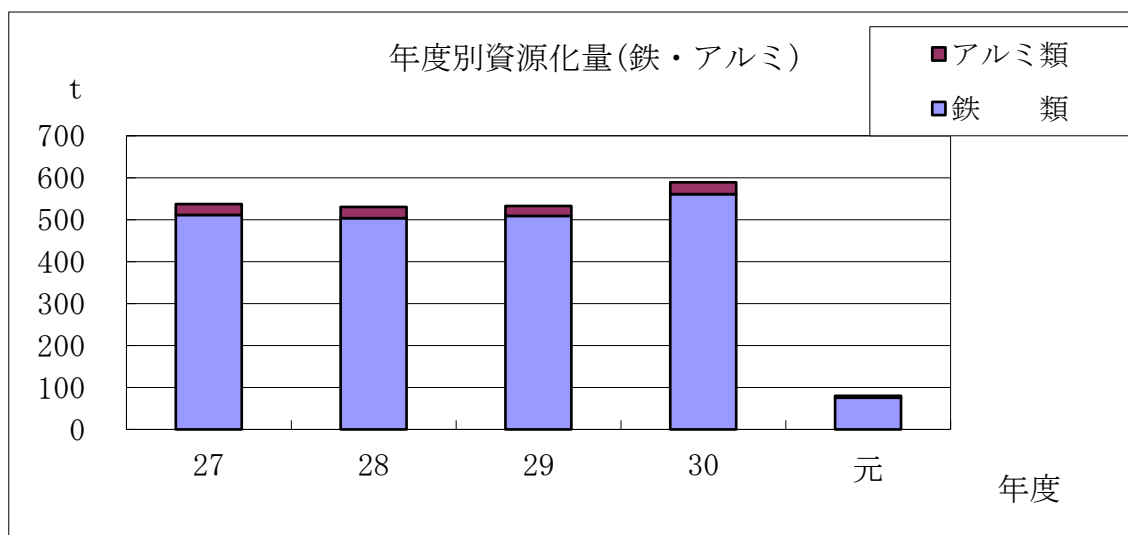


(3) 施設処理に伴う年度別資源化量

ア 破砕処理施設回収（鉄類・アルミ類）

(単位 t)

年 度	27	28	29	30	元
鉄 類	511	504	509	561	76
アルミ類	26	26	24	28	4
計	537	530	533	589	80



イ 灰資源化（灰焙焼・灰セメント化）

(単位 t)

処理先	27	28	29	30	元
民間処理場	686	480	493	781	786

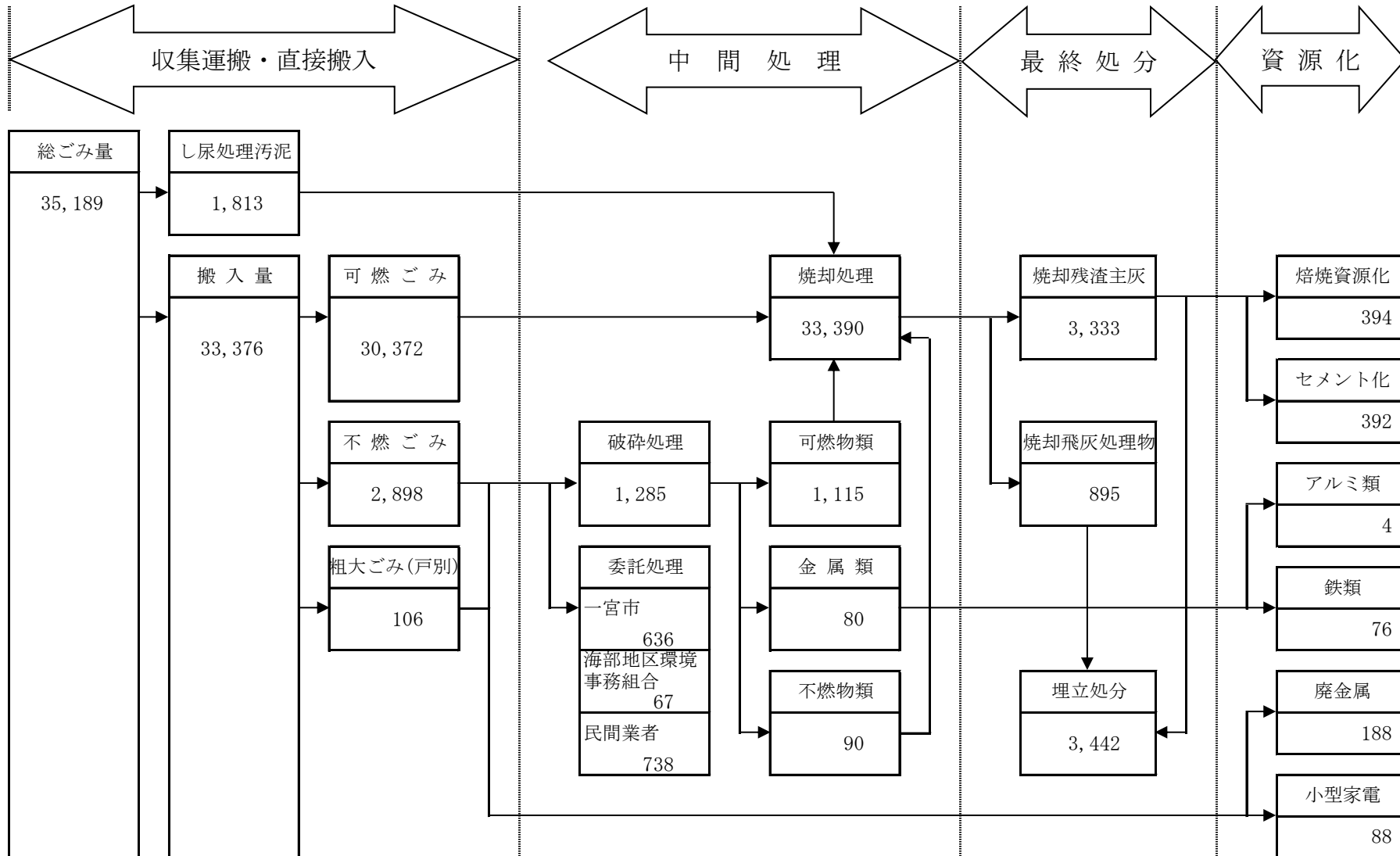
ウ 使用済み小型家電

(単位 t)

年 度	27	28	29	30	元
使用済み小型家電	43	26	31	48	88

7 令和元年度ごみ処理フロー

(単位 : t)



8 リサイクル資源

(1) 令和元年度リサイクル資源回収量

単位：t

区 分		29年度	前年比	30年度	前年比	元年度	前年比
集 団 回 収	紙 類	1,299	88.1	1,228	94.5	1,116	90.9
	布 類	63	92.6	58	92.1	55	94.8
	金属類	18	94.7	18	100.0	16	88.9
	ガラスびん類	1	100.0	1	100.0	1	100.0
計 (A)		1,381	88.4	1,305	94.5	1,188	91.0

分 別 収 集	紙 類	2,511	90.9	2,326	92.6	2,146	92.3
	布 類	195	94.2	187	95.9	176	94.1
	金属類	184	94.4	180	97.8	179	99.4
	ガラスびん類	517	94.3	498	96.3	477	95.8
	ペットボトル	168	96.0	172	102.4	167	97.1
計 (B)		3,575	92.0	3,363	94.1	3,145	93.5

地 域 ス テ ー シ ョ ン	紙 類	83	89.2	72	86.7	63	87.5
	布 類	10	83.3	9	90.0	9	100.0
	金属類	6	85.7	6	100.0	7	116.7
	ガラスびん類	22	100.0	21	95.5	20	95.2
	ペットボトル	4	100.0	4	100.0	4	100.0
	使用済み天ぷら油	1	100.0	1	100.0	1	100.0
計 (C)		126	90.6	113	89.7	104	92.0

プラスチック製容器包装 (D)		1,662	97.8	1,609	96.8	1,588	98.7
-----------------	--	-------	------	-------	------	-------	------

拠 点 回 収	使用済み乾電池、水銀製品	34	100.0	36	105.9	38	105.6
	使用済み天ぷら油	4	100.0	5	125.0	5	100.0
	使用済み小型家電 ※1	2	100.0	3	150.0	4	133.3
	リサイクル資源	17	188.9	13	76.5	18	138.5
計 (E)		57	116.3	57	100.0	65	114.0

直接資源化量 B+C+D+E (F)		5,420	93.9	5,142	94.9	4,902	95.3
--------------------	--	-------	------	-------	------	-------	------

施 設 処 理 資 源 化	小型家電資源化 ※2	31	119.2	48	154.8	88	183.3
	破碎処理施設回収 (アルミ類)	24	100.0	28	116.7	4	14.3
	破碎処理施設回収 (鉄類)	509	101.0	561	110.2	76	13.5
	灰資源化 (セメント化) ※3	-	-	390	-	392	100.5
	灰資源化 (灰焙焼)	493	102.7	391	79.3	394	100.8
施設処理に伴う資源化量 (G)		1,057	102.2	1,418	134.2	954	67.3

合 計 A+F+G (H)		7,858	93.9	7,865	100.1	7,044	89.6
---------------	--	-------	------	-------	-------	-------	------

※1 拠点回収における使用済み小型家電は、環境センター引渡し量のうちボックス回収分と宅配回収分の合計量。

※2 施設処理資源化における小型家電資源化は、環境センター搬入物を選別・解体した小型家電の引渡し量。

※3 灰資源化(セメント化)は平成30年7月より開始。

VI し尿処理事業

1 し尿処理事業概要

市内のし尿及び浄化槽汚泥処理事業は、昭和30年頃まで農作物の下肥として農家が独自で収集し農地に還元されていた。

その後、生活水準の向上、生活様式の変化、化学肥料の普及、農家自体の労働量不足等で農家による汲み取りが減少してきたことにより、委託及び許可業者による収集運搬が実施され、処理については全量が海洋投棄に依存していた。

昭和48年3月に120kℓ/日処理施設、昭和50年9月に50kℓ/日処理施設が完成し、昭和56年7月には三次処理施設を設置して、市内のし尿及び浄化槽汚泥の処理に対応してきた。また、昭和63年4月からは運転管理業務を委託し現在に至っている。

し尿及び浄化槽汚泥の処理方法について、バキューム車で搬入されたし尿及び浄化槽汚泥の処理は、沈砂槽で土砂や金属類を沈殿させ、破碎の後ロータリードラムスクリーンで夾雑物を除去する。夾雑物を除去されたし尿及び浄化槽汚泥は、ポンプ圧送により貯溜ばっ気層に送り、ばっ気して、汚水の安定を図ります。

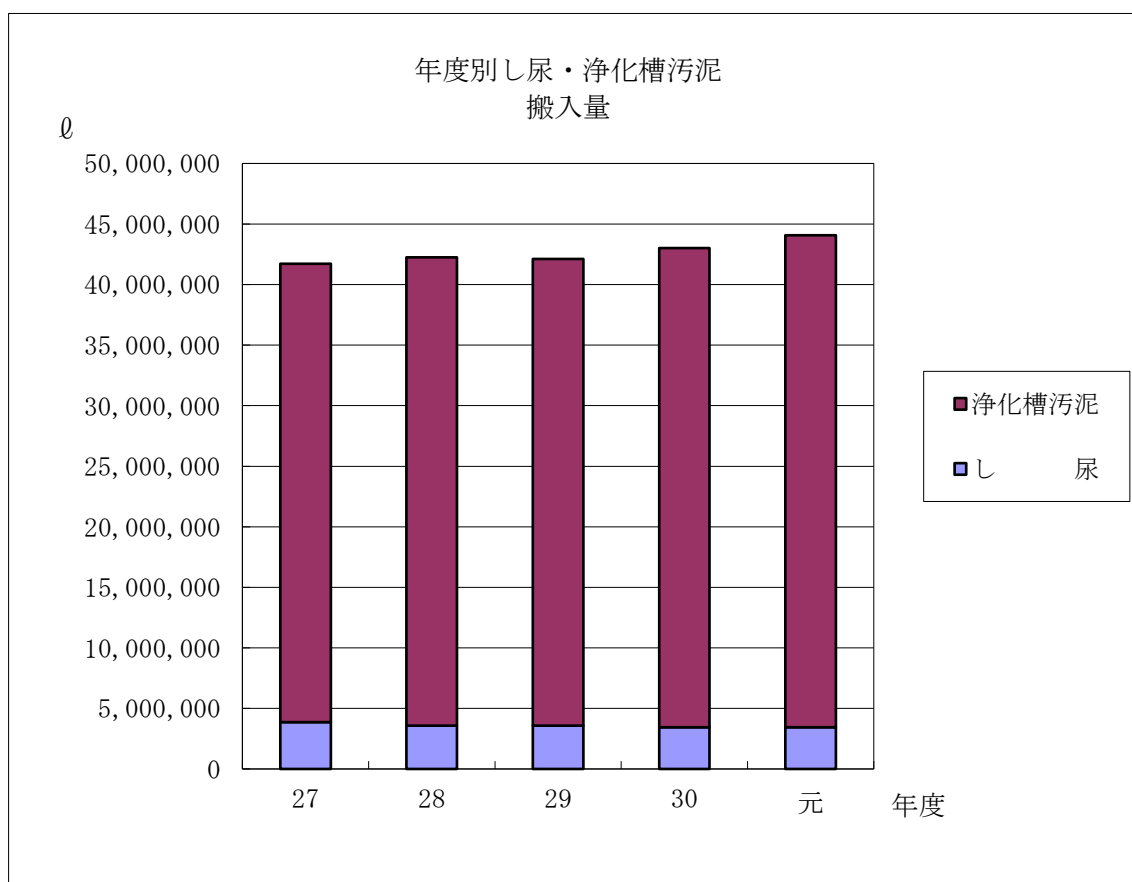
この汚水は第1稀釈調整槽に送られ、し尿・浄化槽汚泥1に対し稀釈水3の割合で稀釈調整され、第1ばっ気槽に流入しばっ気されます。この槽より濃縮槽に入った汚水は汚泥を沈殿させ、上澄液は第2ばっ気槽で再度ばっ気されます。

次に第2稀釈水1.4を加え、微生物の浄化作用を利用した生物酸化処理を行います。活性槽を出た汚水は、第2沈殿槽で上澄液と沈殿汚泥に分離し、上澄液は凝集沈殿による3次処理後、滅菌槽で滅菌のうえ放流します。

2 年度別し尿・浄化槽汚泥搬入量

年度	人口	世帯	し尿・浄化槽汚泥 総量	内 訳	
	(人)	(世帯)		し尿	浄化槽汚泥
			(ℓ)	(ℓ)	(ℓ)
27	138,174	52,806	41,713,562	3,862,002	37,851,560
28	137,918	53,372	42,245,525	3,574,455	38,681,070
29	137,592	53,873	42,111,854	3,567,804	38,544,050
30	137,052	54,229	43,015,664	3,439,784	39,575,880
元	136,887	54,999	44,062,376	3,458,156	40,604,220

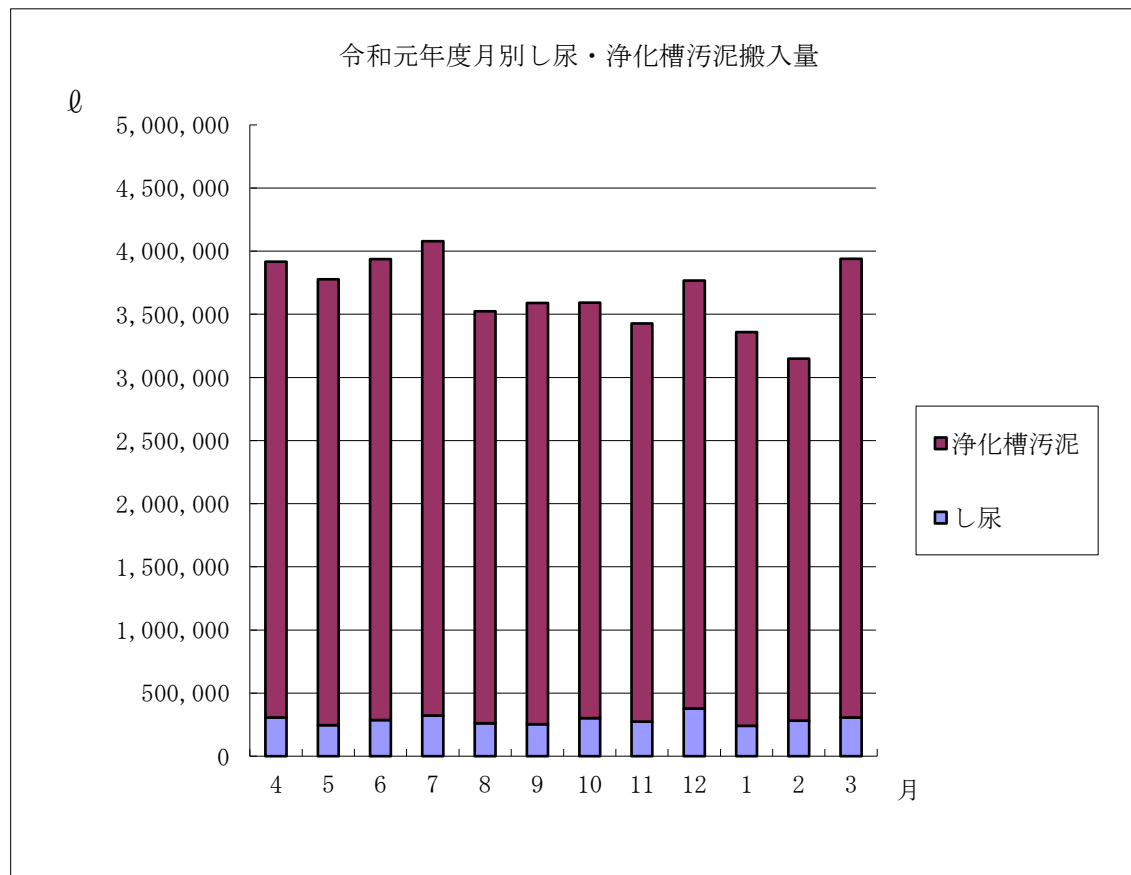
※人口、世帯 = 10月1日現在



3 令和元年度月別し尿・浄化槽汚泥搬入量

(単位 0)

月	し尿	浄化槽汚泥	し尿・浄化槽汚泥 合計
4	305,858	3,611,920	3,917,778
5	244,774	3,532,640	3,777,414
6	287,600	3,650,540	3,938,140
7	321,298	3,757,150	4,078,448
8	261,274	3,263,020	3,524,294
9	253,850	3,335,440	3,589,290
10	302,666	3,290,650	3,593,316
11	273,692	3,154,240	3,427,932
12	378,368	3,388,980	3,767,348
1	240,922	3,118,970	3,359,892
2	280,282	2,867,950	3,148,232
3	307,572	3,632,720	3,940,292
計	3,458,156	40,604,220	44,062,376

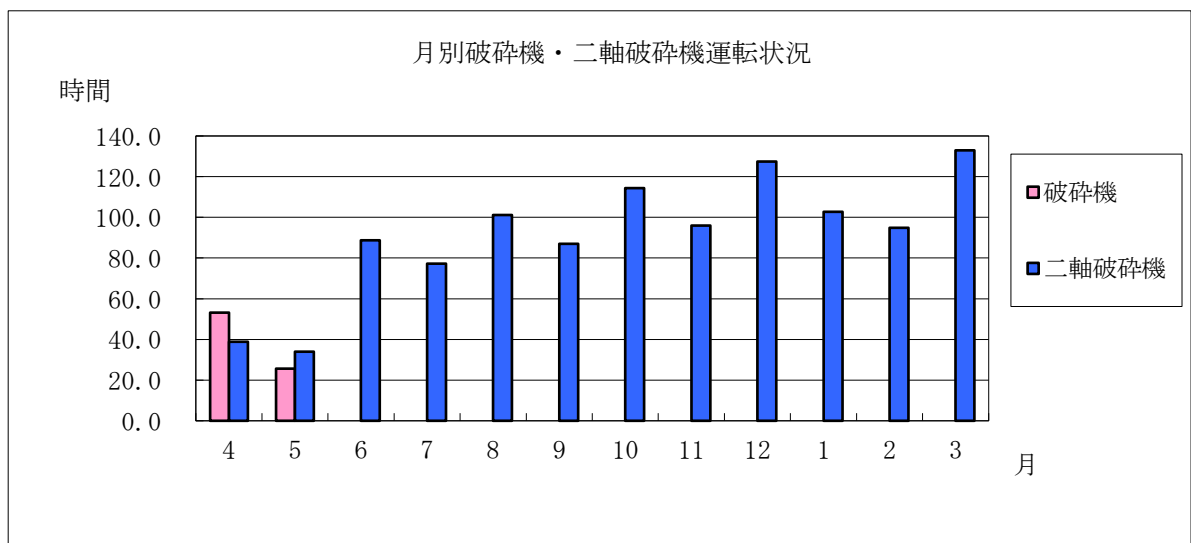
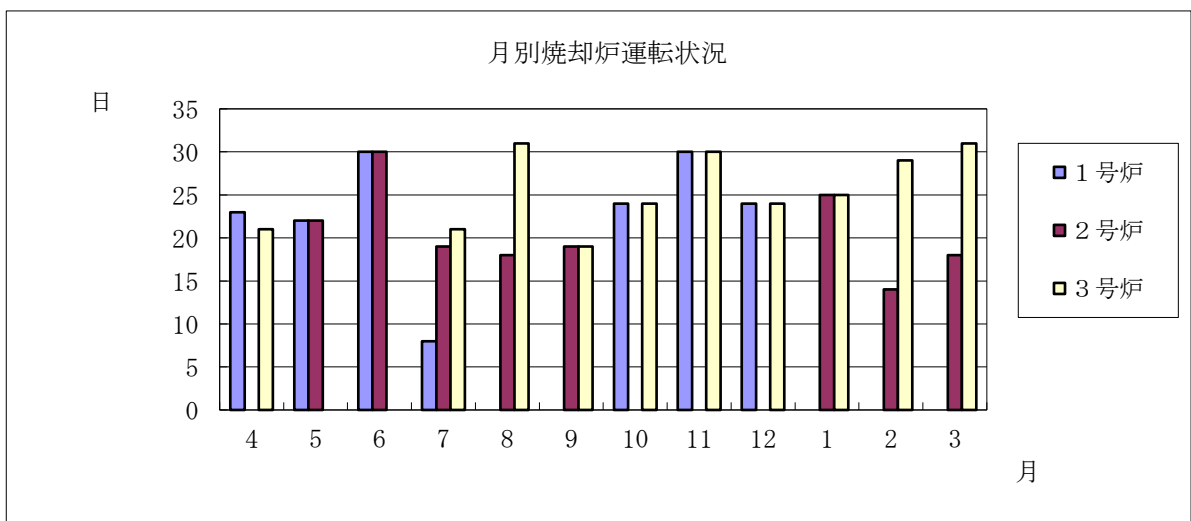


VII 資料

1 令和元年度稲沢市環境センター稼働状況

(1) 月別焼却炉・破碎機運転状況

月	1号炉		2号炉		3号炉		破碎機	二軸破碎機
	日	時間	日	時間	日	時間	時間	時間
4	23	21.2	0	0.0	21	23.5	53.1	38.9
5	22	15.3	22	11.1	0	0.0	25.6	34.0
6	30	0.0	30	0.0	0	0.0	0.0	88.7
7	8	16.4	19	3.0	21	23.1	0.0	77.3
8	0	0.0	18	2.8	31	0.0	0.0	101.2
9	0	0.0	19	22.3	19	22.3	0.0	87.0
10	24	12.6	0	0.0	24	12.6	0.0	114.4
11	30	0.0	0	0.0	30	0.0	0.0	96.0
12	24	22.1	0	0.0	24	21.4	0.0	127.4
1	0	0.0	25	14.4	25	14.4	0.0	102.8
2	0	0.0	14	2.1	29	0.0	0.0	94.8
3	0	0.0	18	13.8	31	0.0	0.0	133.0
合計	164	15.6	167	21.5	259	21.3	78.7	1,095.5



(2) 令和元年度 排ガス、ダイオキシン類、焼却残渣測定結果
4成分

稲沢市環境センター

項目	単位	基準値	炉NO	測定日及び測定値			平均
ばいじん	g/Nm ³	0.08 O ₂ 12%	1号	6/14 0.005	10/17 <0.002	12/13 <0.002	0.002
			2号	7/19 <0.002	1/30 <0.002	3/16 <0.002	
			3号	8/26 0.007	11/15 <0.002	2/21 <0.002	
硫黄酸化物	ppm	1805 ppm換算	1号	6/14 37	10/17 41	12/13 19	19
			2号	7/19 5.0	1/30 5.9	3/16 20	
			3号	8/26 20	11/15 21	2/21 5.5	
窒素酸化物	ppm	250 O ₂ 12%	1号	6/14 61	10/17 51	12/13 59	57
			2号	7/19 66	1/30 59	3/16 55	
			3号	8/26 56	11/15 65	2/21 42	
塩化水素	mg/Nm ³	700 O ₂ 12%	1号	6/14 39	10/17 20	12/13 8.6	21
			2号	7/19 3.4	1/30 1.1	3/16 37	
			3号	8/26 35	11/15 37	2/21 4.1	

ダイオキシン類

稲沢市環境センター

項目	単位	基準値	炉NO	測定日	測定値	平均
排ガス	ng-TEQ /Nm ³	5	1号	6/14	0.0076	0.0029
			2号	7/19	0.000084	
			3号	8/26	0.0011	
主 灰	ng-TEQ /g	3	1号	6/14	0.011	0.004
			2号	7/19	0	
			3号	8/26	0.0023	
固化灰			固化灰	6/14	0.21	0.21

焼却残渣（年間分析の最小、最大、平均値）

稲沢市環境センター

項目	単位	基準値	炉NO	最小値	最大値	平均	平均
熱灼減量	%	10	1号	1.9	4.4	2.9	3.5
			2号	2.1	4.8	3.9	
			3号	2.8	5.2	3.8	
水分	%	—	1号	20.4	27.3	23.8	25.0
			2号	20.0	28.2	24.7	
			3号	24.2	27.7	26.4	
大型不燃物	%	—	1号	0.0	6.3	3.8	4.2
			2号	1.3	9.4	4.3	
			3号	1.8	7.1	4.3	

(3) 令和元年度 騒音、振動測定結果

稲沢市環境センター

項目	区 分	単 位	基準値	地点	測定日	音圧レベル
騒 音	朝 6:00～8:00	dB(A)	55	①	11月22日	48
				②		48
				③		50
	昼 間 8:00～19:00	dB(A)	60	①	11月22日	44
				②		42
				③		52
	夕 19:00～22:00	dB(A)	55	①	11月22日	43
				②		45
				③		48
	夜 間 22:00～6:00	dB(A)	50	①	11月22日	43
				②		45
				③		48

項目	区 分	単 位	基準値	地点	測定日	振動加速度レベル
振 動	昼 間 7:00～20:00	dB	65	①	11月22日	35
				②		39
				③		36
	夜 間 20:00～7:00	dB	60	①	11月22日	<30
				②		32
				③		34

測定地点 ① 環境センター北側、 ② 環境センター北東角、 ③ 環境センター東側
H23年度から年1回

(4) 臭気指数測定結果

令和元年8月1日測定

臭気指数(Y)	10未満
規制基準値(第2種地域)	15

(平成25年4月1日から臭気指数規制導入)

2 令和元年度浄化センター稼働状況

(1) 放流水水質測定結果

稲沢市平和浄化センター

項目	単位	基準値	最大値	最小値	平均値
pH	—	5.8~8.6	7.3	6.9	7.1
BOD	mg/ℓ	30	4.7	0.5	2.6
COD	mg/ℓ	30	5.3	3.2	4.3
浮遊物質	mg/ℓ	70	2	1	1.5
カドミウム	mg/ℓ	0.1	<0.003	<0.003	<0.003
シアン	mg/ℓ	1	<0.1	<0.1	<0.1
鉛	mg/ℓ	0.1	<0.01	<0.01	<0.01
全水銀	mg/ℓ	0.005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
大腸菌群	個/cm ³	3000	<30	<30	<30
塩化物イオン	mg/ℓ	—	37	31	34.0
全リン	mg/ℓ	2	0.2	0.1	0.2
全窒素	mg/ℓ	60	12	6.1	9.1
水温	℃	—	26.5	12.9	19.7
①アンモニア性窒素	mg/ℓ	①×0.4+② = <100	<0.1	<0.1	<0.1
②亜硝酸性及び硝酸性窒素	mg/ℓ		12	5.5	8.8

(2) 臭気指数測定結果

項目	平和浄化センター	測定日			
	規制基準値(第1種地域)	5月9日	7月11日	10月9日	1月9日
風上臭気指数(Y)	12	10未満	10未満	10未満	10未満
風下臭気指数(Y)	12	10未満	10未満	10未満	10未満

(平成25年4月1日から臭気指数規制導入)

(3) 脱水汚泥溶解物質測定結果

稲沢市平和浄化センター

項目	単位	基準値	測定日1 1. 7. 11	測定日2 1. 12. 5
pH	—	—	7. 9(24℃)	7. 8(19℃)
カドミウム	mg/ℓ	0. 3	<0. 0009	<0. 009
シアン		1	<0. 1	<0. 1
鉛		0. 3	<0. 01	<0. 01
セレン		0. 3	<0. 01	<0. 01
六価クロム		1. 5	<0. 05	<0. 05
ひ素		0. 3	<0. 01	<0. 01
全水銀		0. 005	<0. 0005	<0. 0005
アルキル水銀		不検出	不検出	不検出
P C B		0. 003	<0. 0005	<0. 0005
トリクロロエチレン		0. 3	<0. 002	<0. 002
テトラクロロエチレン		0. 1	<0. 001	<0. 001
四塩化炭素		0. 02	<0. 002	<0. 002
ジクロロメタン		0. 2	<0. 02	<0. 02
1. 2-ジクロロエタン		0. 04	<0. 004	<0. 004
1. 1. 1-トリクロロエタン		3	<0. 001	<0. 001
1. 1. 2-トリクロロエタン		0. 06	<0. 006	<0. 006
1. 1-ジクロロエチレン		0. 2	<0. 02	<0. 02
シス-1. 2-ジクロロエチレン		0. 4	<0. 04	<0. 04
1. 3-ジクロロプロペン		0. 02	<0. 002	<0. 002
チウラム		0. 06	<0. 006	<0. 006
シマジン		0. 03	<0. 003	<0. 003
チオベンカルブ		0. 2	<0. 02	<0. 02
1. 4-ジオキサン		0. 5	<0. 05	<0. 05
ベンゼン		0. 1	<0. 01	<0. 01
ほう素		10	<1	<1
有機リン		1	<0. 1	<0. 1
含水率	%	85	74	76

(4) 騒音、振動測定結果

稲沢市平和浄化センター

項目	区 分	単 位	基準値	地点	5月9日	10月9日	平 均	平 均
騒 音	朝 6:00～8:00	dB(A)	55	①	41	45	43	45
				②	44	46	45	
				③	48	49	49	
				④	43	45	44	
	昼 間 8:00～19:00	dB(A)	60	①	41	43	42	46
				②	42	44	43	
				③	48	48	48	
				④	51	51	51	
	夕 19:00～22:00	dB(A)	55	①	41	45	43	44
				②	40	44	42	
				③	49	49	49	
				④	42	44	43	
夜 間 22:00～6:00	dB(A)	50	①	45	43	44	44	
			②	41	44	43		
			③	48	49	49		
			④	42	43	43		

測定地点 ①浄化センター東側、②浄化センター北側、③浄化センター南側、
④浄化センター西側における年間2回の測定日の最大値、最小値、平均値を示す。

稲沢市平和浄化センター

項目	区 分	単 位	基準値	地点	5月9日	10月9日	平 均	平 均
振 動	昼 間 7:00～20:00	dB	65	①	35	32	34	34
				②	31	36	34	
				③	36	39	38	
				④	<30	30	30	
	夜 間 20:00～7:00	dB	60	①	30	30	30	32
				②	<30	31	31	
				③	36	38	37	
				④	<30	<30	<30	

令和元年度清掃事業概要

令和2年9月発行

編集・発行 〒492-8391

愛知県稲沢市中野川端町74番地

稲沢市経済環境部環境施設課

電話 0587-36-4357(ダイヤルイン)

稲沢市経済環境部資源対策課

電話 0587-36-0135(ダイヤルイン)